

# ホームニュース

中川区・中村区

毎月第2・第4土曜日発行 / 発行部数91,250  
発行地域 / 中川区・中村区全域  
発行 中日ホームニュース社  
〒454-0985 名古屋市中川区春田3-80

広告掲載・編集・取材についてのお問い合わせは  
中日ホームニュース編集部  
〒451-0042 名古屋市中区西区那古野1丁目20-9  
TEL / 052-726-5728 Fax / 052-308-3710  
メールアドレス / homenews@f-creative.co.jp



国の登録有形文化財のプレート

名古屋の中心部に残る農家の木造建築  
寛家住宅は、江戸時代末期に建てられ、明治時代初期に現在地に移築・増築されたものです。敷地は二百坪ほどあり、都市部にありながら、尾張地方の農家の構造をもち、近世後期から末期における一般農家の規模、様式技法をよく伝える建物」ということが、文化財の登録理由だそうです。

普通は生活の場として使われている同住宅ですが、事前申し込みをすれば見学が可能です。寛家第八代目当主の寛清澄さんに、住宅を案内してもらいました。



名古屋駅からわずか1キロメートルほどの場所にある古民家

玄関をくぐり、長い路地を渡ると見えてくるのが母屋です。母屋は茅葺きで、「四つ建」という建築様式です。四つ建とも呼ばれ、外壁から半間(約0.9メートル)、もしくは一間(約1.8メートル)入った位置に主柱を立て、他の主柱と梁材でつなぐ形式です。内部は台所や座敷、納戸など四室からなっていて、「建築方や間取りなどは、尾張地方の農家の典型的なスタイルで成り

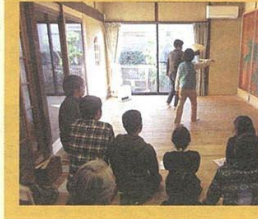


今も保存されている濃尾地震の地割れ

立ちます」と寛さん。床の間には、ひな人形や端午の節句など季節の飾り物があり、見学者の目を惹きつけています。縁側から外に目をやると、素晴らしい日本庭園が広がります。中央には大振りな松があり、先祖が定住したときに植えたもので、樹齢は百年以上です。小部屋は二八九(明治二四)年に増築した部分ですが、その年に濃尾地震があり、床下に地震でできた地割れが残っていることも貴重です。濃尾地震や戦争の空襲、そして伊勢湾台風といった難からも免れ、今もその姿を留め

## 子ども能楽教室

寛家住宅では、離れを活用して子ども能楽教室を行っています。これは、寛家7代目の故・寛鋺一さんが能楽師だったことから、「若い世代に日本の伝統文化を教えたい」と、10年ほど前から行っているもの。毎月2回、土曜日の14:00から行っています。興味のある人は、まず見学を。



る寛家住宅。昔はここにもあった農家は、近代化によりほとんど失われていきました。いま保全しないと、こうした古い民家は日本から消滅してしまいます」と、寛さんは訴えます。そういう意味で「寺社や公共の建物ではなく、人が普段生活していて、ここまで保存されている建物は貴重な存在です」。



中庭の庭園

# 国指定登録有形文化財

# 寛家住宅を訪ねる

二〇一三年、国の登録有形文化財に指定された中村区下米野町の「寛家住宅(寛家住宅)」。都心で現存する、昔の農家の建物です。そこは、古い木造建築ならではの温もりと、ゆるやかな時間を感じる場所でした。

寛家 第八代目当主の 寛清澄さん

「日本人は、木と共生する文化が感性の根底にあります。木造建築の良きを見守ること、未来のまちづくりのヒントになれば」と、語ります。



風格を感じさせる母屋



玄関から伸びる路地